

4. 教育行政執行方針に基づいた主な施策・事業の取組状況、成果・課題等

(1) 学校教育（給食センター、小中学校含む）

○主な施策		
1. 確かな学力を育む教育活動の充実		
点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 基礎学力向上への組織的な取組み	<p>【小学校】 全国学力・学習状況調査や標準学力検査の結果を踏まえて、課題のある領域を分析し、「学校改善プラン」に学力向上の取組みを位置づけ、結果を教員全体で共有するなど、組織的な取組みに努めた。</p> <p>【中学校】 全国学力・学習状況調査や標準学力検査の結果を踏まえて、校内研修のテーマを「授業改善」と位置づけ、道外の学力向上推進校への視察や公開研究会の開催、「イングリッシュ・トライアル」の実施など、教員全体で組織的な取組みに努めた。</p>	<p>【小学校】 課題のある領域を分析し、「学校改善プラン」に基づき、個別指導の充実等に努めた。今後、全体的な学力の底上げと同時に、教育上配慮の必要な児童への、よりきめ細かな指導が課題となることから、特別支援教育学習支援員を効果的な活用を図ることが必要である。</p> <p>【中学校】 課題のある領域を分析し、学校全体の学力向上を図ったが、著しい成果は見られなかった。全体の学力向上のためには、個々に応じた学習指導へ、より組織的に取り組む必要がある。</p>
(2) 長期休業中の補完的な学習への取組み	<p>【小学校】 夏季休業中に3日間、冬季休業中に2日間、社会教育事業の「あそびの達人特別教室」と連携し、教員と大学生や地域ボランティアが協力し、休業中の宿題やプリントなどに取組むとともに、休業中の生活習慣の定着に努めた。</p> <p>【中学校】 夏季・冬季休業中に、各3日間の学習会を実施し、授業内容の復習や個々の学力に対応するため、大学生を活用し補完的な学習への取組みを行った。</p>	<p>【小学校】 延べ210名の参加があり、子どもたちが自主的に学習に取り組む姿勢が見られた。また、個別に教員や大学生のサポートがあり理解に深まりが見られた。</p> <p>【中学校】 延べ120名の参加があり、長期休業中の学習への意識付けがなされた。今後も地域の人材を活用し、個々の学力に応じたきめ細かな学習指導に取り組む必要がある。</p>

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(3) 公設学習塾の開設	<p>基礎学力と学習意欲の向上、家庭学習の定着を図るため、民間学習塾及び学校と連携し、小学4年生から中学3年生までを対象に「算数・数学科」の公設学習塾を開設し、小学校については年21回、中学校については年24回実施した。</p> <p>委託業者の選定にあたっては、プロポーザル方式を採用し、株式会社トライグループと契約を締結した。</p> <p>授業内容や進め方などは、参加者へのアンケート調査や学校との意見交換を行い連携し実施した。</p> <p>また、事業開始時と終了時に理解度確認テストを実施し、結果の分析を行った。</p>	<p>小学生は53名、中学生は69名の参加があり、小学生で38%、中学生は41%の参加率となり、当初目標としていた対象児童生徒数の30%の参加率に到達した。</p> <p>学年ごとに複数の講師を配置し、学校授業の進捗に合わせ基礎基本を中心に、家庭学習の定着を図ることができ、結果、理解度確認テストでは全学年で学力の向上が見られたほか、国語や英語科についても学力の向上が見られた。</p> <p>学校行事や習熟度によって授業の満足度に差異が出たことによって参加率の減少がみられたことから、次年度に向けて、児童生徒をはじめ保護者に対し、公設学習塾の意義・目的、進め方などの理解を促進させ、学校と連携しながら取組む必要がある。</p>
(4) 家庭学習や学習習慣の定着	<p>【小学校】</p> <p>自主的な家庭学習の継続・学習習慣の定着に向けた家庭学習の方法等について、学校だよりや懇談会で啓発を行うとともに、家庭学習の実態について、調査結果の周知に努めた。</p> <p>【中学校】</p> <p>家庭と連携した家庭学習の習慣化について、新学期に「家庭学習の手引き」を配布し、各教科の特性に応じた家庭学習方法について指導を行った。中学校で作成した家庭学習ノートの提出を促し、自学自習の定着化に努めた。</p>	<p>【小学校】</p> <p>児童の努力を認め、励ますなど、自主的な学習意欲を高めるような取組みを今後も進めるとともに、家庭との連携を一層強め、児童の生活習慣の見直しを図る必要がある。</p> <p>【中学校】</p> <p>「家庭学習ノート」の提出習慣が定着しているが、提出することに留まることなく、学習した内容が授業で生かされるよう家庭学習の内容を指導する必要がある。</p>

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
<p>(5) 外国語指導助手によるコミュニケーション能力の育成</p>	<p>【小学校】 全学年において外国語指導助手の活用を図り、英会話などを通じて英語に直接触れる機会の確保と外国語での基礎的コミュニケーション能力の育成に取り組んだ。</p> <p>【中学校】 外国語指導助手や地域の英語の堪能した人材を活用した「イングリッシュ・トライアル」を開催し、場面に応じた実用的な英会話を行うことで、コミュニケーション能力の育成に努めた。</p>	<p>【小学校】 全学年で外国語指導助手を活用することにより、外国語の発音や会話に慣れ親しみ、実際の生活場面を想定したプログラムを多く取り入れることにより実用的に英語を使う機会・能力の伸長が図られた。</p> <p>今後、学習指導要領の改定を見据え、教員の英語力向上に向けた研修を行う必要がある。</p> <p>【中学校】 外国語指導助手の活用、英語教員の指導力向上研修によるコミュニケーション力を高める授業改善を行う必要がある。</p>
<p>(6) 国際社会で活躍できる人材の育成</p>	<p>カナダ・バンクーバーへの14日間の短期留学を実施し、中学生6名が地元大学での英語レッスンやホームステイによるホストファミリーとの生活体験を行い、国際社会で活躍できる人材の育成を図った。</p> <p>また、留学前に実施した事前の英語レッスンでは、外国語指導助手による英会話指導を受け、実践に繋がる英語力の向上に取り組んだ。</p>	<p>中学生国際留学プログラムの研修報告書を作成し、町広報及びHPに掲載するとともに、「青少年健全育成を考える集い」「あそびの達人特別教室」において体験発表を行い、成果について広く町民に伝えた。本事業の参加を目標に小中学生が積極的に英語検定を受検するなど、英語に対しての自主的な学習意欲の向上に繋がった。</p> <p>なお、資格取得者のみならず、国際社会に興味を持ち、積極的に海外研修を希望している生徒も応募ができるよう、次年度に向け、参加要件など事業内容の見直しを行う必要がある。</p>

2. 豊かな人間性と健康な体の育成

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
<p>(1) 学校の教育活動全体を通じた道徳教育の推進</p>	<p>【小学校】 日常の場面において規範意識を指導することを意識し、道徳の授業を通して実践的行動力を高めることに努めた。また、保護者や地域の方々とともに児童の心を育むことを目指し、参観日等を利用して道徳の時間の授業公開を行った。</p> <p>【中学校】 道徳科における全体構成や年間指導計画などを見直し、道徳教育が実践できるよう整備を行うとともに、全学級の道徳の時間の授業公開を行い、授業改善に努めた。</p>	<p>【小学校】 道徳の授業実践力を高めるために、授業展開や板書、評価などの校内研修等を行うとともに、家庭でも「豊かな心」を育成することの大切さを共通認識する手立てを講じる機会を増やしていく必要がある。</p> <p>【中学校】 授業の構成や展開、具体的な指導、発問、評価について、外部からの意見を取り入れながら、改善を推進するとともに、目標・課題・まとめ・評価について研修を深め教科化に向け準備する必要がある。</p>
<p>(2) いじめ問題における迅速かつ組織的な取り組み</p>	<p>「南幌町いじめ防止基本方針」に則した取組みや、年2回の「いじめの把握のためのアンケート調査」を実施し、結果に基づく実態調査や教育相談を行うことで、いじめの未然防止や早期発見、早期対応に努めた。</p> <p>また、小・中・高校生の児童生徒を対象とした「仲間づくり子ども会議」を開催し、「いじめの防止・根絶」をテーマにポスター等を作成し、各学校や公共施設に掲示し啓発を行った。</p>	<p>いじめは、どこの学校でも起こりうるということを認識し、あらゆる機会を捉えて継続的に指導していくとともに、「いじめ防止・根絶」には児童生徒への意識づけが重要であることから、今後においても「仲間づくり子ども会議」を継続して実施するなど、関係機関との連携を密にして組織的に取り組むことが必要である。</p>

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
<p>(3) スクールカウンセラーによる児童生徒の心のケア</p>	<p>【小学校】 中学校に派遣されるスクールカウンセラーと特別支援教育コーディネーターと定期的に連携を図り、延べ15名の児童や保護者とのカウンセリングを行った。</p> <p>【中学校】 週1回、年29回、スクールカウンセラーが来校し、生徒理解と生徒指導主任が連携し、延べ38名の生徒や保護者とのカウンセリングを行うことで、個別の指導計画を立て、見通しをもった生徒指導を行うことができた。</p>	<p>【小学校】 不登校や種々問題行動など課題のある児童への適切な指導・相談体制が構築できており、保護者との共通理解を図る上でも、重要な場となっている。</p> <p>今後も中学校との連携を図ることで、小・中学校にまたがる支援体制を維持する必要がある。</p> <p>【中学校】 生徒や保護者への対応はもとより、個別の指導計画を一層活用し、生徒指導に生かしていく必要がある。</p>
<p>(4) 体力や運動能力の向上に向けた取組み</p>	<p>【小学校】 新体力テストの実施及び運動会やマラソン記録会などでの練習時間確保による運動能力向上に取組むとともに、日常的にも、体育の授業で体力づくりに関わる運動を取り入れることができた。また、学力向上とも関連させ、生活習慣の実態把握と改善策を家庭と共有することで児童の生活習慣の向上に繋げることができた。</p> <p>【中学校】 新体力テストの全学年での実施や、生徒会主催による全校球技大会(バレーボール)、「どさんこ元気アップチャレンジ」コンテストへの参加など、全校を挙げて体力づくりに取り組むことができている。</p>	<p>【小学校】 新体力テストの結果を活用し、授業での体力向上の取組みに生かすことができた。</p> <p>運動する楽しさや喜びを実感した児童が多く、積極的に体を動かす習慣の形成や、その機会を通じた良好な人間関係づくりにも効果があった。</p> <p>【中学校】 新体力テストの結果を、体育祭や部活動の指導においても活用できるように検討するとともに、部活動への参加を促し、運動への親しみや楽しく運動する態度を育成していく必要がある。</p>

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(5) 学校給食を通じた食育の推進と主食の全額町費負担の実施	<p>栄養教諭を中心とした食に関する指導や給食だよりの発行(年14回)を通じて食育を推進するとともに、学校給食に南幌産の米や小麦、野菜等を取り入れることで、食材への感謝や主要農産物に対する理解を深めるよう取り組んだ。</p> <p>また、米や麺、パンといった主食分の費用を全額町が負担した。</p>	<p>南幌産の米の使用を10%維持するとともに、南幌産の小麦や野菜を昨年よりも多く取り入れることや、栄養教諭を中心とした食に関する指導を図ることで、学校給食を通じた食育の推進を図ることができた。</p> <p>また、主食費用を町が負担することで保護者負担を軽減することができた。</p> <p>今後も地元農産物の活用を通じた食育を推進するためには、新しく購入できる食材がないか情報収集を行っていく必要がある。</p>

3. 開かれた学校づくりと教育活動の充実

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) コミュニティ・スクールの導入	<p>平成30年度より学校運営協議会を立ち上げ、年9回(内小学校部会2回、中学校部会3回)開催し、学校経営方針、教育活動、学校の実態などを説明し、広く意見を求める機会を提供した。また、学校で実施した保護者アンケートの結果に基づき、学校評価に対する意見を求めた。</p>	<p>学校運営協議会を通じて、学校の実態、児童生徒の生活の様子などの課題・問題点について、保護者や地域の方々に理解を頂き、コミュニティ・スクールとしての役割について相互に理解を深めることができた。</p> <p>今後、コミュニティ・スクールが学校と地域を繋ぐことができる活動となるよう、小・中学校が連携を密にして取り組む必要がある。</p>

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
<p>(2) 総合的な学習や職場体験活動等の充実</p>	<p>【小学校】 地域の豊かな教育資源を活用し、バケツ稲や教育田、世代間交流も含めた体験的な活動を行い、「ふるさと南幌」を児童自らが考える教育の充実に取組んだ。 また、町内の公共機関や工場見学等の学習活動を通し、職場における工夫や苦勞、思いを知る学習を充実させる取組みを行った。</p> <p>【中学校】 総合的な学習の年間指導計画において、職場体験・職種調査を地域との連携を図り行うとともに、自分はどうな仕事に向いているのか適性・適職の発見に導くため、外部講師を年3回招聘し、3年間を見通した指導を行った。</p>	<p>【小学校】 各教科等で培った力を生かし、「ふるさと南幌」について、児童が自ら課題を設定し、解決していくための授業に取り組むことができた。地域の方々の積極的な協力により、働くとはどういうことかを考えるきっかけとなった。各教科と関連付けた取組みが今後も必要である。</p> <p>【中学校】 3年間を見通した系統的な計画、総合的な学習の時間の目標を明確に把握し適応するなど柔軟に対応できる組織づくりが必要である。</p>
<p>(3) 特別支援教育の推進</p>	<p>小・中学校に特別支援学習支援員（小学校4名、中学校2名）を配置し、普通学級に在籍する教育上配慮が必要な児童生徒に対して、個々の状況に合わせた指導及び支援を行った。 また、小・中・高等学校、養護学校、保健福祉課と特別支援教育の連携を図るため、特別支援教育連携会議を開催し、情報提供と支援の充実に努めた。</p>	<p>児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を、今後も継続して実施する必要がある。 また、特別支援教育のより充実を図るため、特別支援教育連携会議を定期的に開催する必要がある。</p>

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(4) 教職員の体罰や飲酒運転などの不祥事の根絶に向けた取組み	<p>定例校長・教頭合同会議における教育長の示達により、教職員の服務規律の保持に向けた指導を実施した。</p> <p>示達を受け小学校では、「アンガーマネジメント」(怒りを予防し、制御するための心理療法プログラム)に関する事例研修や、資料配布により体罰防止の意識を高め、体罰調査の機会を生かした実態把握を行った。</p> <p>また、服務規律に関しても事例研修等を行い、防止に努めた。</p> <p>中学校においては、校内研修の実施や「南幌中学校安全運転の誓い」を職員全員の署名を掲載することで、意識を高めた。</p>	<p>小・中学校それぞれ校内での体制研修や調査などの不祥事根絶に向けた取組みが推進されたが、今後も服務規律の徹底について、より一層研修を深め、意識を高めていく必要がある。</p>

4. 教育環境の充実

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 小学校少人数学級の導入	<p>「南幌町立南幌小学校適正規模・適正配置基本方針」に基づき1学年2学級が維持できるよう、第4学年に町独自による教員1名の加配を行った。</p>	<p>町独自の加配を行うことで、小学校第4学年の2学級を維持し、きめ細かな指導を行うことができた。今後も少子化の影響により、少人数の学年が増えてくることが予想されるため、人材確保など計画的な導入が必要である。</p>
(2) 情報通信技術を活用した教育の質の向上	<p>南幌小学校のパソコン更新に伴い、タブレット型コンピューター40台や電子黒板6台などを導入するとともに、活用に向けた教職員研修を定期的に行うことで教育の質の向上に努めることができた。</p>	<p>最新の情報機器を整備することで、指導の工夫・改善を図ることができた。</p> <p>今後も情報通信技術を活用した、よくわかる授業づくりの実施に向け、教職員研修を通じ、更に教育の質の向上に努める必要がある。</p>

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(3)「高等学校等通学費補助事業」の実施	高等学校等に通学する生徒の保護者で南幌町に居住する者に対し、通学方法によらず学校ごとに一定額を補助することで、保護者の負担軽減を図ることができた。	<p>広報や個別周知等による制度周知を行うことで、交付対象者の支給率は94.4%となり、年々支給率が増加している。</p> <p>今後においても制度の定着が図られるよう未申請者の個別周知など、継続した周知・啓発を行う必要がある。</p>
5. 南幌高校に対する支援		
点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 魅力ある高校づくりに対する支援	南幌高校振興協議会を通じ資格取得に対する助成の継続実施や、進学入学補助や進学祝い金補助を実施するとともに、地域への奉仕活動など特色ある活動を町広報誌で紹介するなど、魅力ある高校づくりに対する支援に努めた。	<p>平成30年9月に公立高等学校配置計画が公表され、南幌高等学校については令和3年度入学者の募集停止、令和5年3月に閉校が決定した。</p> <p>今後においても、入学者の減少や在校生の教育環境に影響を与えないよう関係機関と協議しながら支援を進める必要がある。</p>
6. 姉妹町児童交流の推進		
点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 熊本県多良木町との児童交流学習事業の実施	両町それぞれ、訪問団15名(児童10名・引率者5名)が参加し、夏季に多良木町の訪問、冬季に多良木町からの訪問団を受け入れ、それぞれ4日間の日程で民泊の実施や各町での特色ある学習活動などを実施し、相互の児童交流を行った。	<p>両町ともに予定を上回る応募があり、姉妹町交流の定着が図られている。</p> <p>本町においては、小学校において全校集会での全児童との交流のほか、民泊家庭の協力を得て、北国ならではの体験や交流が図られた。</p>

(2) 社会教育

○主な施策

7. 子育て・家庭教育の支援

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 家庭教育の向上	幼稚園、小・中学校と連携を図り、入学説明会や参観日で講話や家庭教育に関する情報提供を行った。 また、PTA連合会との共催による「青少年健全育成を考える集い」においても、ネットモラルを中心とした家庭教育に関する講話を行った。	学校行事等に合わせて事業を実施し、より多くの保護者などに対して、家庭教育に関する情報提供を行うことで、家庭教育の向上が図られた。
(2) 子育ての不安を解消できる相談・支援体制の充実	生涯学習サポーターの協力のもと、座談会や乳幼児健診を活用した「子育てメソッド」などの事業を実施し、子育て経験者や保健師などに気軽に相談できる機会の提供に努めた。	生涯学習サポーターの協力を得て、保護者が子育て経験者等に対して、助言を求めたり悩みを相談できる機会をつくることで、子育て支援体制の充実を図ることができた。

8. 青少年健全育成の推進

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 放課後子どもプラン推進事業の実施	放課後等における児童の安全安心な居場所づくりを推進し、児童が多様な学習や体験ができるよう、小学校や生涯学習サポーターと連携し「あそびの達人教室」や「なんぼろMANABI家」「週末支援テニス教室」などを実施した。	生涯学習サポーターや学童保育、教員、読み聞かせサークルなどと連携を図りながら、安全安心な居場所づくりに努めるとともに、多様な学習や体験を企画、実施することができた。 一方で、協力いただける生涯学習サポーターが限定されていることから、今後、幅広い人材の発掘と確保を図る必要がある。 また、「週末支援テニス教室」については、参加者が少なく、今後の実施について検討する必要がある。

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(2) 関係団体との連携協力した青少年問題に対する取組み	<p>小・中・高等学校や関係機関、団体の代表者で組織する青少年健全育成協議会の開催やPTA連合会との共催による「青少年健全育成を考える集い」を実施し、青少年問題に対し、連携協力して取組んだ。</p> <p>また、各催事で子どもたちの見守りや非行などにつながる行動を未然に防ぐため、関係機関・団体と協力し、年4回の巡回指導を実施した。</p>	<p>青少年健全育成協議会では、健全育成の啓発のため、児童生徒の「校外生活のきまり」を全世帯に配布したほか、関係団体と現状や課題・問題点などの情報共有を図った。</p>
(3) 次代を担うリーダーの養成	<p>子ども会育成連絡協議会と連携し、三重湖でのリーダーキャンプやたくみ祭り、ニセコ自然体験活動などの世代間交流による子どもリーダー養成事業を通じて、子どもたちの社会性や創造性を育む機会を創出した。</p> <p>なお、少子化の影響などで、近年、子ども会がない地域が出てきているが、等しく事業に参加できる仕組みづくりを行っている。</p> <p>また、南空知4町、空知管内での研修に子どもを派遣し、リーダー養成を図った。</p>	<p>子ども会育成連絡協議会の各事業においては、子ども達自らが企画・活動することで自主性や責任感を培った。</p> <p>また、「さわやかカレッジ」との世代間交流を通じて、地域の大人と接する機会を拡充したことで、社会性や創造性を育む機会を確保することができた。</p>

9. 生涯学習、社会教育の推進

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 町民が自主的・主体的に学ぶことのできる学習環境の充実	<p>「さわやかカレッジ」や「ふるさと南幌みらい塾」では、参加者が自主的・主体的に学ぶことができる事業に取組んだ。</p> <p>また、事業の実施にあたっては、アンケート調査を行ったり、ふるさと南幌みらい塾運営委員会、さわやかカレッジ自治会を開催し、事業内容や運営方法などを協議検討した。</p>	<p>「さわやかカレッジ」や「ふるさと南幌みらい塾」では、参加者へのアンケート調査を実施し、参加者の満足度が得られるよう自治会や運営委員会が企画・内容の検討を行うことで、自主的・主体的に学ぶ意識の涵養に取り組むことができた。</p>

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
<p>(2) 町民が生きがいをもって活躍できる機会の創出</p>	<p>「生涯学習推進基本構想」に基づき、生涯学習推進本部を開催し、庁内における情報共有や連携協力を推進した。</p> <p>また、「ふるさと南幌みらい塾」や「放課後子ども教室」を中心に、各分野で知見を有する地域の人材を講師や指導者として活用した。</p>	<p>庁内で日程や内容が重複する事業について、事前に情報共有し、連携協力を図ることで、効率的かつ効果的に実施することができた。</p> <p>また、地域の多様な人材を活用することで、幅広い学習と多世代の交流の機会の創出につながっているが、少子高齢化が進行し、担い手不足が懸念されることから、新たな人材の発掘と確保を図ることが必要である。</p>
<p>(3) 学校支援体制の充実</p>	<p>小・中学校からのプール学習やスキー学習、陶芸教室等の学習支援の要請に対し、関係団体や生涯学習サポーターを募集・派遣することで、学校教育への支援を行った。</p>	<p>少子化の影響により児童生徒数の減少で、教員の数も減少していることから、学習支援に対する要請が増加しているが、関係団体や生涯学習サポーターの協力により事業を円滑に進めることができた。</p> <p>生涯学習サポーターの派遣が限定される中、小・中学校で授業が重複する場合は、派遣人数の調整が困難であることから、今後、人材の発掘と確保を図ることが必要である。</p>

10. スポーツ・レクリエーション活動の推進

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) スポーツを通じた地域間交流の活性化と健康づくり、体力の向上	<p>スポーツ推進委員が中心となって、全町ソフトボール大会や各ミニバレーボール大会の企画・運営を行ない、スポーツを通じた世代間交流を図ることができた。</p> <p>また、各スポーツ少年団の協力のもと、ジュニアアスリートクラブでは、より専門的な指導を実施し、体力の向上を図る機会の創出に努めた。</p>	<p>ジュニアアスリートクラブでは、様々なスポーツの指導を通じて、スポーツに親しむことの必要性や魅力などを普及することができた。</p> <p>また、人口減少や少子高齢化が進む中、全町的な大会において参加者が限定的になっていることから、より幅広い層にスポーツに親しんでもらうため、今後もスポーツ推進委員や関係団体が連携協力しながら、事業を進める必要がある。</p>
(2) 低年齢からスポーツに親しむ環境づくり	<p>幼児を対象としたキッズスポーツ教室や小学校低学年を対象としたジュニアアスリートクラブのほか、各種スポーツ教室等の実施により、幼少期から継続的にスポーツに親しむ環境づくりに取り組んだ。</p>	<p>幼児や小学校低学年を対象とした各種スポーツ教室の実施により、低年齢からスポーツに親しむ環境をつくり、将来的な子どもたちの体力向上につなげることができた。</p>

11. 芸術・文化活動の推進、ふるさとの記憶の保全

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 優れた芸術の鑑賞や発表する機会の充実	<p>幼稚園をはじめ、保育園、中学校、文化協会と連携を図り、園児から一般町民までを対象に芸術鑑賞会を開催した。(小学校は胆振東部地震により中止)</p> <p>また、児童生徒作品展や書き初め大会、生涯学習センターロビーを活用した展示を実施するとともに、文化協会と連携し、町民総合文化展や芸能発表会を開催した。</p>	<p>芸術鑑賞会の開催により、優れた芸術に接する機会や、書き初め大会、町民総合文化展の実施により、創作作品を町民に披露する機会を提供することで、文化活動の活性化と町民の関心を高めることができた。</p>

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(2) 郷土に根ざした郷土芸術の伝承、普及活動	<p>郷土三大芸能団体（南幌音頭、俵つみ唄、南幌太鼓拓心会）と連携を図り、町内の催事で披露する機会を提供した。</p> <p>また、人口減少や少子高齢化により各団体の会員の減少が進んでいることから、団体のPRや会員の募集を積極的に行った。</p>	<p>町内の催事に出演することで、多くの町民に郷土芸能の魅力を伝えることができた。</p> <p>会員の高齢化や会員数の減少が進んでおり、今後も団体活動が継続するために、新規会員の加入促進等について検討する必要がある。</p>
(3) 町の歴史を伝える貴重な資料の保存・継承	<p>7月1日の「治水感謝の日」に合わせて、水害・治水写真展を実施したほか、町の歴史を学ぶ郷土資料の収集・保存・展示を実施した。</p>	<p>郷土資料室に収集・展示している資料が、町の開拓の歴史や文化・風土を伝える役割を果たしている。</p> <p>郷土資料室の訪問者数が減少していることから、生涯学習センターロビーで関連の展示会などを実施し、関心を高め、郷土資料室への訪問者を増やすなどの工夫を図る必要がある。</p>

12. 読書活動の推進

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 生涯学習センター図書室の環境整備	<p>より身近で親しみやすい図書室づくりを目指し、年次計画に基づき、新刊図書や書架などの備品を購入し、図書室環境の一層の充実に努めた。</p> <p>また、小学校や他の公共施設と連携を図り、学校代理貸出やふるさと巡回文庫を実施した。</p>	<p>新刊図書の購入や寄贈図書により生涯学習センター開設に伴う計画目標の蔵書数 54,000 冊に到達した。</p> <p>また、備品購入により、図書室の読書環境の一層の充実が図られた。</p> <p>貸出冊数が毎年増加していることから、今後も一層の利用者サービスの充実に努めるとともに、利便性向上と蔵書管理を高めるために、蔵書点検の実施が必要である。</p>

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(2) 読み聞かせサークルと連携した事業の実施	読み聞かせサークルとの連携により、創作活動の「はるのおはなし会」をはじめ、「人形げきのつどい」や幼児を対象とした「出張読み聞かせ」、「ブックスタート」事業、小学生を対象とした朝の読み聞かせ事業などを実施した。	読み聞かせサークルとの連携により、事業を実施したことで、多くの子ども達が読書に親しむ機会を提供することができた。 また、昨年度の優良読書グループ全国表彰の受賞に続き、空知しんきん産業文化振興基金のふるさとづくり貢献賞の受賞など、各方面から高い評価を受けており、今後も地域に根ざした活動に対する支援を行う必要がある。
(3) 子どもの読書週間などに合わせた事業の推進	子どもの読書活動推進計画に基づき、子どもの読書週間では「はるのおはなし会」、秋の読書週間では「リサイクルブックフェア」や「キッズ・ライブラリアン（子ども司書体験）」を実施した。 また、小学生を対象としたブックスタートプラス事業や中学生の職場体験の受入れ、絵本作家を招いた講演会を実施した。	子どもの読書週間に合わせて開催した事業をはじめ、図書室の業務体験や絵本作家による講演会と原画展の実施により、子どもはもとより、幅広い世代が読書に親しみを持つ機会を提供することができた。

1 3. 社会教育関係施設の充実について

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 適切な維持管理と利用環境の向上	各施設において適切な管理運営を行った。 また、より利便性が高く、利用者に満足してもらえるようスポーツセンターアリーナの天井改修工事や農村環境改善センターの喫煙所プレハブ設置工事等を実施し、利用環境の充実に取組んだ。	各施設での管理業務の委託、利用団体との調整や計画的修繕、備品購入の他、緊急を要する修繕対応等により適切に施設を運営することができた。 夕張太プールについては、建築年数が経過し老朽化が進んでいることから、今後、施設のあり方について検討する必要がある。

5. まとめ

この点検・評価の実施をもとに、施策の効果を検証し改善を図りながら、より充実した教育行政の実現に努めてまいります。